

被災農地で被災者を対象にした無農薬・減農薬の市民農園造成と実践的「食育」講座開催

活動地域 福島県

復興支援助成

3年目

実践

公園部分の整備 **238**㎡

収穫祭・農業体験の参加者 **521**人

今年度計画の達成度 **100**%

全体計画の達成度 **100**%



農園に隣接する476㎡を花壇と畑に造成

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

一時、隣接地1,238㎡に太陽光の計画が上がり、農園利用者に激震が走った。何とか借地契約を結ぶことができ、2,000㎡の土地をトータルで管理できるようになった。

■ 工夫した点

収穫祭の目玉に市民提供のグッズで「断捨離百円市」のブースを設けたところ、開場前から列ができた。子ども農業体験には8家族25人が参加。野菜嫌いの子ども野菜好きに変身した。

課題

津波で被災した農地で遊休閑地と化しているところに環境や景観に配慮した市民農園（農地公園）を造成し、被災者らに利用してもらう。

目標

草丈の高い耕作放棄地だった場所が、市民の憩いの場と安全な野菜の生産の場になるよう造成する。食育の重要性も併せて伝えていく。

活動内容と成果

津波で被災した耕作放棄地に市民農園（農地公園）を造成。45区画の農園の整備が完了し、本格的に畑の利用が始まった。隣接する土地も借地契約でき、トータル2,168㎡の土地を総合的にデザインできるようになった。養蜂・ガーデニング等のクラブ活動も始まり、町中農園の多目的利用を目指した活動を進めることができた。併せて食の重要性を学ぶ境野米子氏の「食養生講座」を年3回開催。また農園の中で初めて開催した収穫祭は「安全な食について考えよう」をテーマにし、想定を大幅に超える500人超の来場者・出店者があった。



収穫祭は農園の中に20張のテントが立った

全助成期間の活動を振り返って

町中にタヌキが出没する被災農地（耕作放棄地）が、農地公園として管理されることになり、修景作業と土地の多面的利用の観点から成功したと思われる。収穫祭を通じ、市民の皆様にも農地公園の存在をアピールすることもできた。8回開催した境野米子氏らの「食養生講座」では安全な食について常日頃から考える習慣を身につける方法を学べた。そして何より参加者が楽しく仲間づくりができたことが最大の収穫だった。



通学路を飾るチューリップは企業から提供

〒976-0022
福島県相馬市尾浜字南ノ入241-3
電話：0244-38-7820
E-mail：info@futaro.org
HP：http://futaro.org/



今後の展望

- ①新たに1,268㎡の農地公園が造成される
- ②これまで手掛けた900㎡を連携させ、2,168㎡の農地を総合的にデザインができる
- ③町中農園なので、農業の利用を減らし、除草した草や残渣を堆肥化した循環型農業に取り組む
- ④様々なニーズに対応し、町中農地の多面的活用を進める
- ⑤子ども食堂との連携で廃棄野菜が少なくなる

